

2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021/11/16

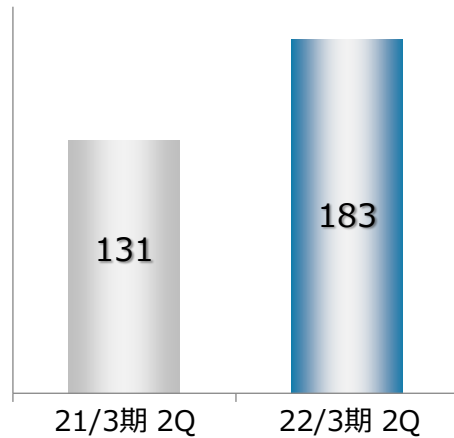
2022年3月期第2四半期 決算説明

単位：億円（億円未満四捨五入）

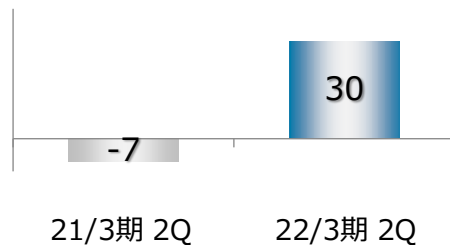
	2021年3月期 第2四半期 実績	2022年3月期 第2四半期 実績	前年比
売上高	353	459	+30.0%
営業利益	▲20	35	-
経常利益	▲20	34	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲50	34	-

- ◆半導体需要回復など、新型コロナで大きく低迷した前年同期から浮上。
- ◆増収や事業構造改革の効果により、利益面も改善。

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

市況

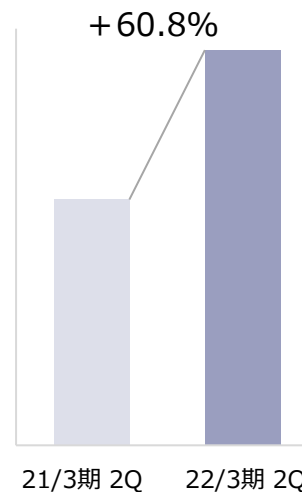
強い需要は継続している一方、
電子部品の需給ひっ迫や、サプライチェーンの混乱などが懸念された。

業績概況

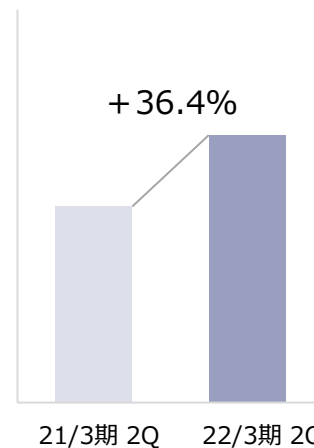
自動車をはじめ、各市場強い需要環境を背景に売上増。
増収や構造改革効果により、損益面を改善。

内訳

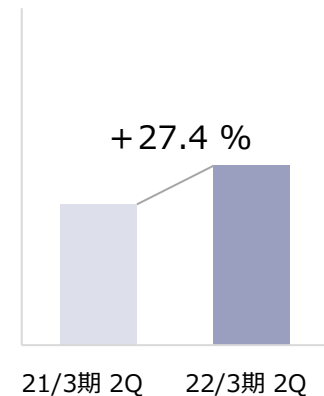
自動車



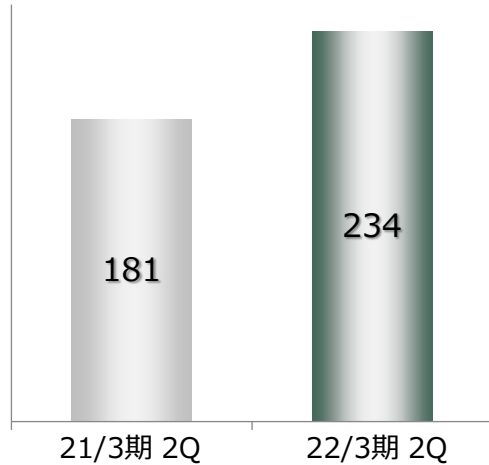
家電



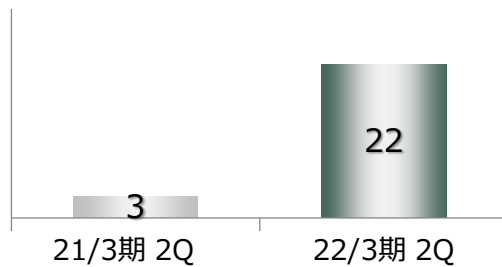
産機



セグメント別売上高



セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

市況

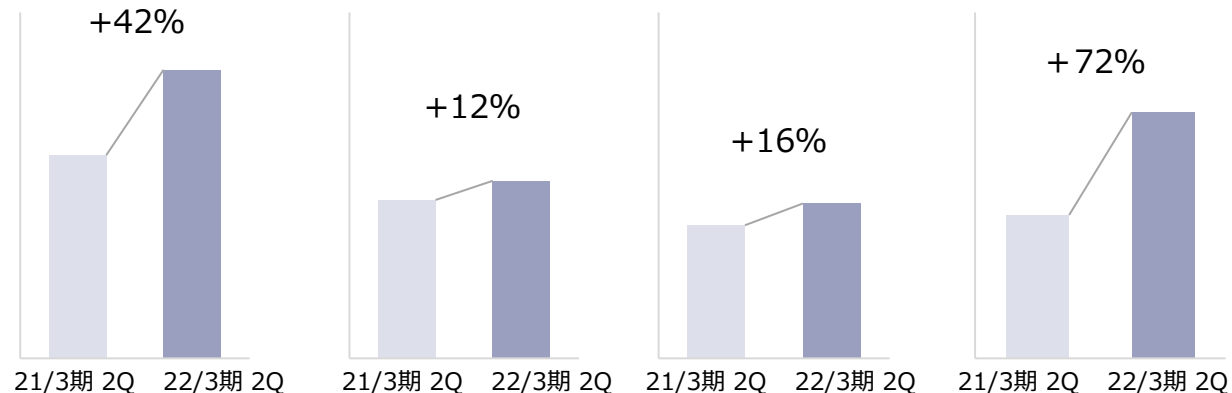
一部地域で経済活動の制限が継続する一方、前年同期からは上向いた。

業績概況

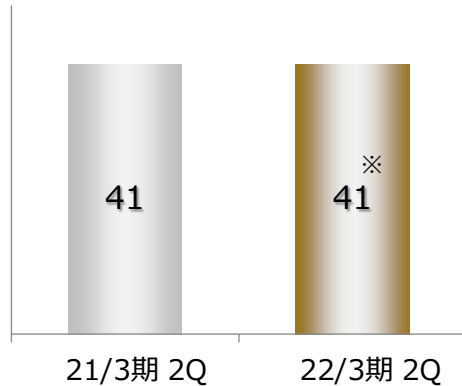
生産調整等を行った前年同期からは浮上したが、コロナ以前の水準までは回復しない状況が続く。

内訳

現地グループ会社の二輪車向け売上高（現地通貨ベース）



セグメント別売上高



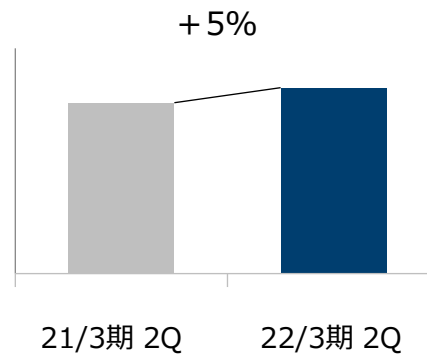
※今期から収益認識会計基準を適用。
適用前の基準で算出すると約46億円。

市況

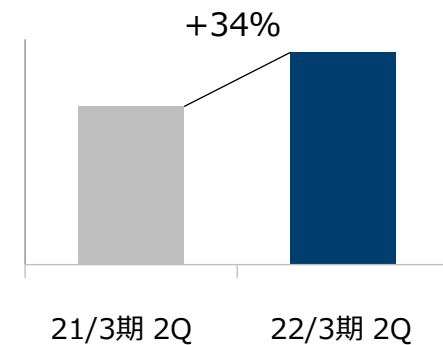
5G普及に伴い通信向けが堅調。
太陽光発電向けパワーコンディショナは、最終とりまとめを行い、
終息に向けた取組みを推進中。

内訳

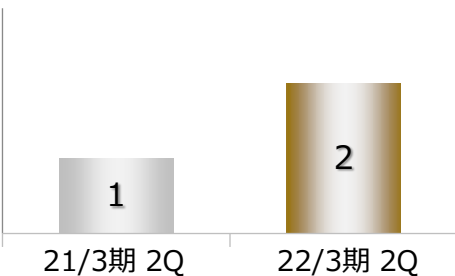
通信



太陽光

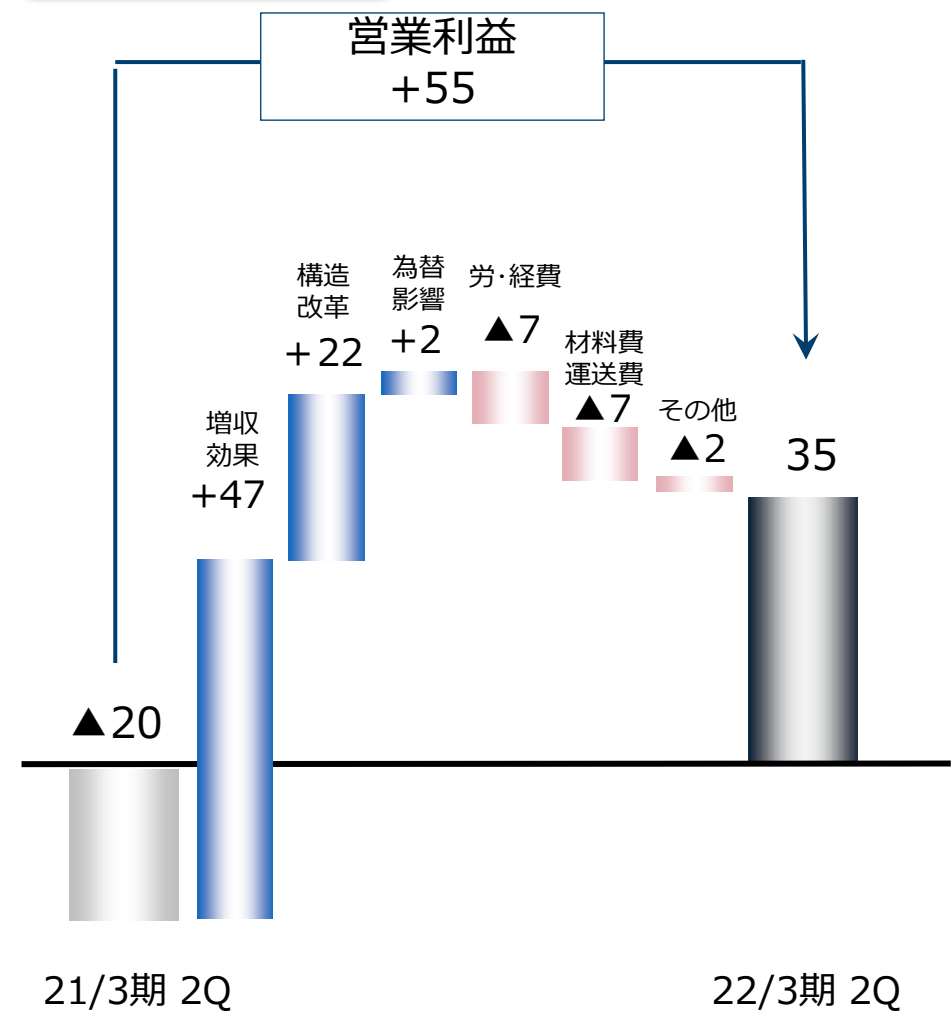


セグメント別営業利益



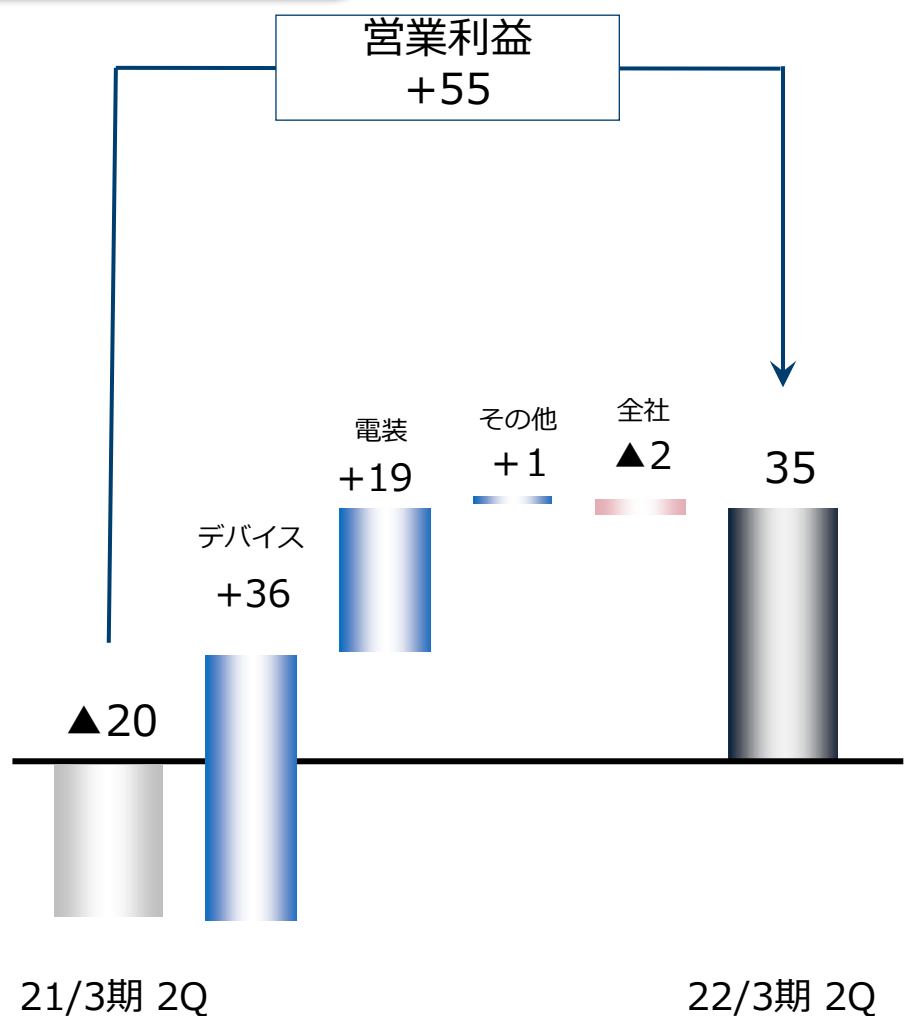
単位：億円（億円未満四捨五入）

要因別増減益分析



セグ別増減益分析

単位：億円（億円未満四捨五入）



設備投資・減価償却・研究開発

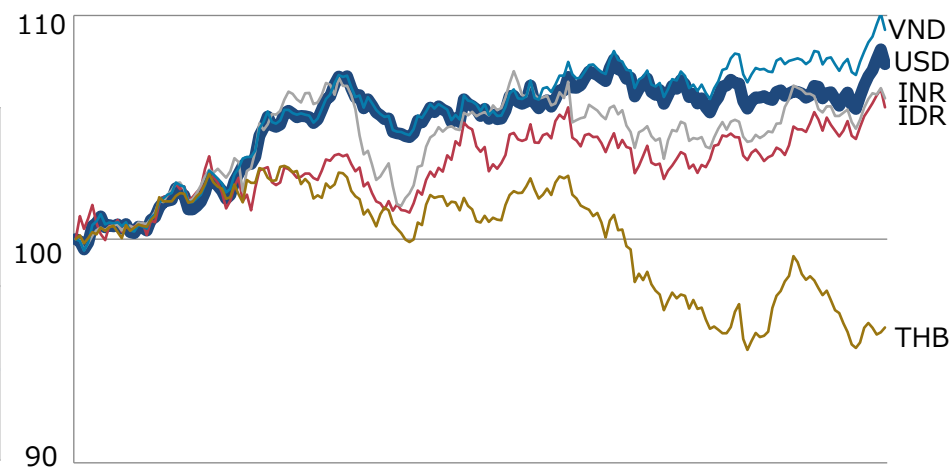
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期 第2四半期 実績	2022年3月期 第2四半期 実績	前期比
設備投資	49	25	▲48.7%
減価償却費	23	27	+18.2%
研究開発費	25	20	▲21.1%

為替レート

単位：JPY/USD

	2022年3月期 第2四半期 実績
海外子会社換算レート	107.76
単体取引高レート	110.21



※2021年1月1日時点の為替レートを100として9か月間の推移を指数化

◆朝霞事業所開業に向けた投資が終わったことで、設備投資額は減少。

連結貸借対照表

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	増減
流動資産	743	770	+3.6%
固定資産	535	527	▲1.6%
資産 合計	1,278	1,296	+1.4%
流動負債	317	280	▲11.5%
固定負債	467	485	+3.7%
負債 計	784	765	▲2.4%
純資産	495	532	+7.6%
総資産 合計	1,278	1,296	+1.4%
自己資本比率	38.7%	41.0%	+2.3pt.
有利子負債残高	386	403	+4.6%

◆朝霞事業所関連の未払金が減少したことと、利益剰余金が増加したことで
自己資本比率が上昇。

2022年3月期 通期連結業績予想

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期 実績	2022年3月期			前期比
		上期 実績	下期 差引	通期 予想	
売上高	804	459	487	946	+17.6%
営業利益	▲11	35	24	59	-
経常利益	▲12	34	24	58	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲56	34	24	58	-

◆通期業績予想は1Q時点の予想値から変更無し。

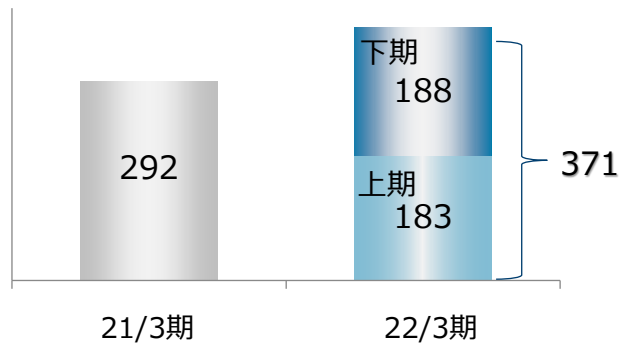
◆下期の売上高は上期比で増収を見込む一方、損益面は材料費等の費用増を見込み減益。

通期連結業績予想 (セグメント別)

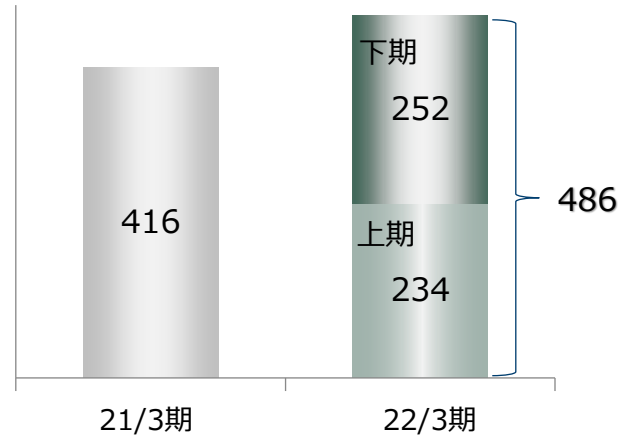
セグメント別売上高

単位：億円（億円未満四捨五入）

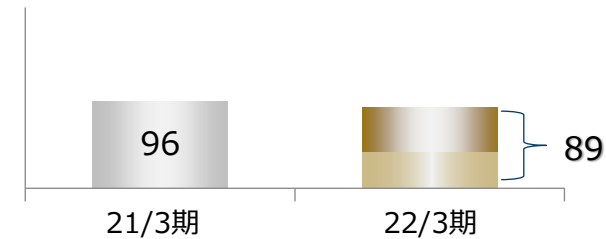
【デバイス】



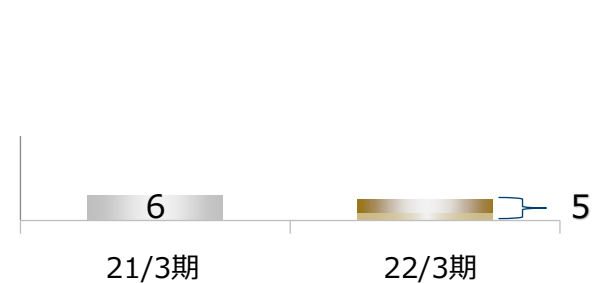
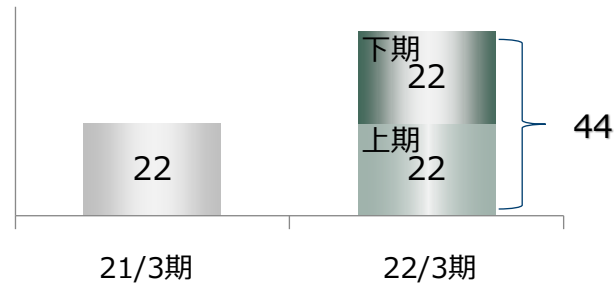
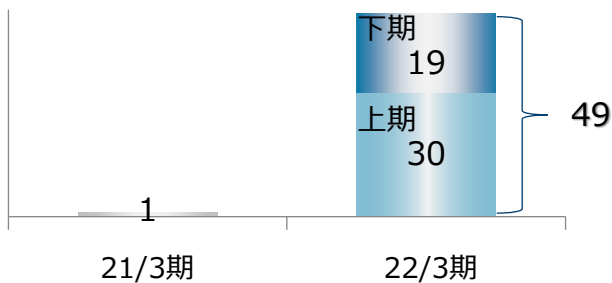
【電装】



【その他】



セグメント別営業利益



【デバイス】 下期は上期比で、売上は同水準を見込むが、損益面は材料費や運送費の高騰による費用増を見込む。

【電装】 アジア二輪市場は徐々に上向くも、下期は上期と比較して、材料費等の上昇による費用増を想定。

設備投資・減価償却・研究開発

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	前期比
設備投資	118	53	▲55.2%
減価償却費	47	50	+5.6%
研究開発費	50	47	▲5.3%

為替レート

通期業績予想の為替レート前提は、

1USドル = 104円

（上期から見直しせず）

配当金

2022年3月期期末配当金予想は、

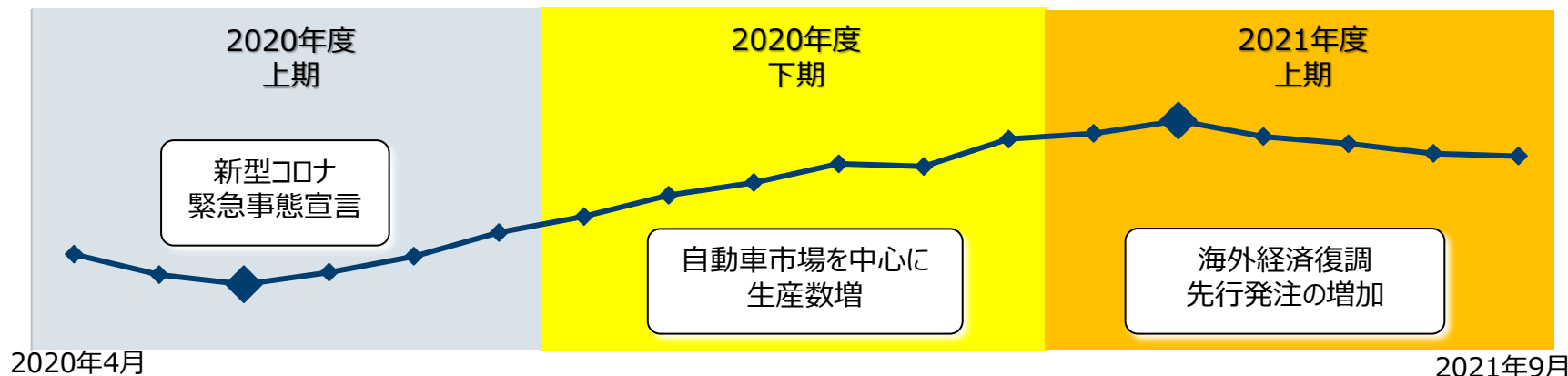
100円（前期比 + 100円）

トピックス

半導体需要増への対応

半導体受注動向

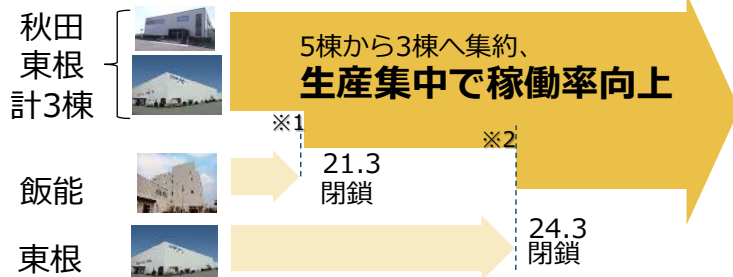
- 2020年4月から2021年9月までの受注額の推移を3カ月移動平均でグラフ化
- 受注額は、新電元工業単体ベース



2021年度下期の受注水準は、上期の高騰からは落ち着くと想定も
今上期にあった先行受注分の出荷が続くことから、売上高は上期と同水準を想定

生産能力について

クリーンルーム



- ※1：主に開発用途で使用。閉鎖後、別拠点のCRを活用。
※2：閉鎖するCRで使用していた設備を既存CRへ移設。

ウエハーインチアップ

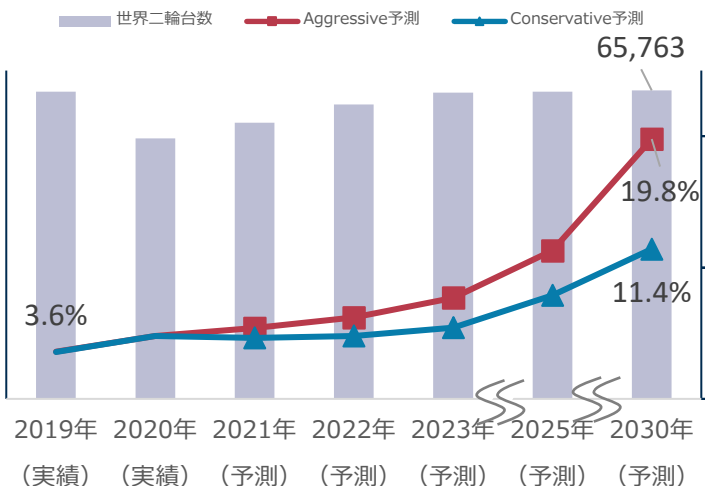


インチアップを進めることで、
生産効率を高め、能力拡大していく。

二輪EV化に向けた取り組み

二輪車EV化予測

単位：千台



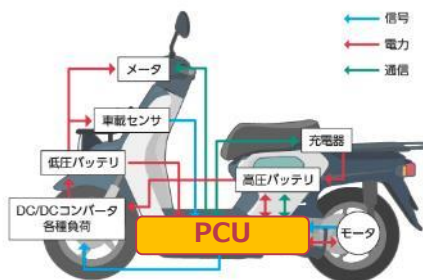
出典：矢野経済研究所「電動化が進む二輪市場の最新動向と市場展望2021」世界の二輪車市場規模予測と電動二輪車普及予測をグラフ化。予測値は2021年5月現在。電動二輪車（EV）には電動モペット（EM）を含むが、最高速度25kph以下の電動自動車（EB）は除く。
Aggressive予測は、電動二輪車の導入を妨げる諸問題が解決され、量産規模の拡大等によって車両価格も内燃機関二輪車と同等、競合できる水準となると仮定している。Conservative予測は、充電インフラの整備、車両価格のICE二輪車並みへの下落、趣味領域との迎合など各種課題解決にある程度時間を要することになると仮定している。

EV二輪車は、EVと同様急速に拡大すると予測。

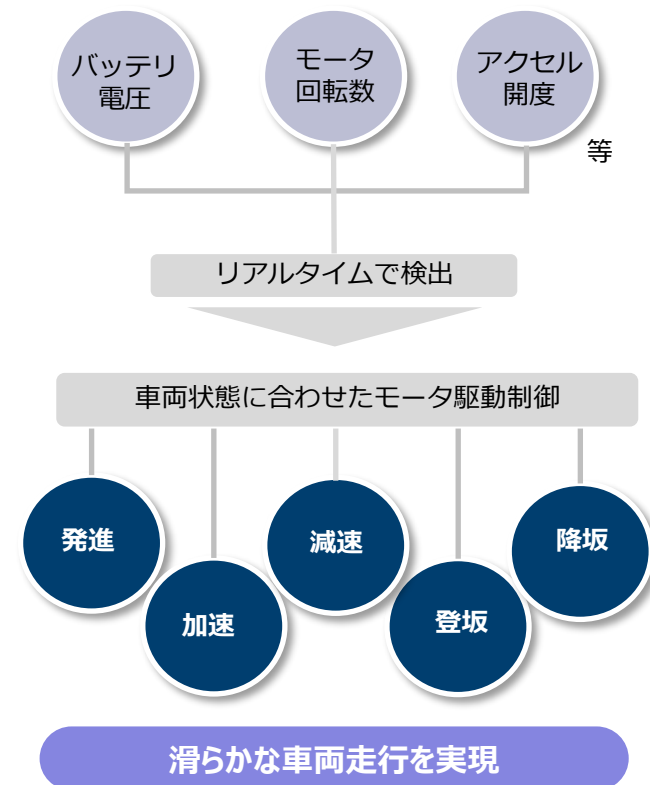
PCUの開発



※新型コロナウイルスにより、顧客評価に遅れ。量産時期見直し。



<PCUの機能概要>



市場環境の変化に柔軟に対応するために
キーパーツとなるデバイスは自社で開発。

ESGマテリアリティ

トピックス

関連SDGs

E 環境

環境配慮型製品による 価値提供

■EV普及に向け急速充電器をリリース

最大出力150kW
SDQC2F150シリーズ



■電源技術を活かした省エネ製品の開発

- ・二輪車向けECUは、アイドリング制御をつかさどり、排ガス・騒音の低減に貢献。



事業活動と環境との 調和

■省エネルギー技術を 積極採用した朝霞事業所開業



●建築物の代表的な3つの評価・認証全てを取得●



CASBEE建築評価 CASBEEウェルネス
「S」ランク オフィス「S」ランク ZEB Ready

■働き方改革の推進

- ・全従業員を対象とした在宅勤務制度導入
- 安全・安心な職場環境の提供

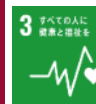
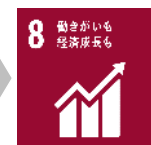
S 社会

多様で、働きがいの ある職場づくり

G ガバナンス

公正かつ透明性が 高い経営基盤の強化

- 事業継続（BCM）の強化
 - ・リモートを利用した訓練の実施
- 指名・報酬委員会を設置
- 社外監査役の増員 女性監査役の選任
 - ・監査体制の強化、充実



企業ミッション

**「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、
人類と社会に貢献します。」**

ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、
多分に不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

Appendix

◆セグメント別連結売上高（上・下）実績、予想

単位：百万円（百万円未満切捨て）

	2021年3月期 実績						2022年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期実績		下期予想		通期	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
デバイス	13,110	37.2%	16,102	35.7%	29,213	36.3%	18,316	39.9%	18,783	38.5%	37,100	39.2%
電装	18,069	51.2%	23,560	52.2%	41,630	51.8%	23,422	51.1%	25,177	51.7%	48,600	51.4%
その他	4,108	11.6%	5,484	12.1%	9,593	11.9%	4,142	9.0%	4,757	9.8%	8,900	9.4%
合計	35,288	100.0%	45,148	100.0%	80,437	100.0%	45,882	100.0%	48,717	100.0%	94,600	100.0%

◆セグメント別連結営業利益（上・下）実績、予想

	2021年3月期 実績						2022年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期実績		下期予想		通期	
	営業利益	利益率	営業利益	利益率	営業利益	利益率	営業利益	利益率	営業利益	利益率	営業利益	利益率
デバイス	△ 672	△5.1%	757	4.7%	85	0.3%	2,956	16.1%	1,943	10.3%	4,900	13.2%
電装	295	1.6%	1,899	8.1%	2,195	5.3%	2,241	9.6%	2,158	8.6%	4,400	9.1%
その他	98	2.4%	528	9.6%	627	6.5%	173	4.2%	326	6.9%	500	5.6%
調整額	△ 1,676		△ 2,311		△ 3,987		△ 1,883		△ 2,016		△ 3,900	
合計	△ 1,954	△5.5%	874	1.9%	△ 1,080	△1.3%	3,487	7.6%	2,412	5.0%	5,900	6.2%

※連結営業利益は、セグメント間の内部売上高を含んだ数値で算定しています。

◆全製品 市場分類別売上高構成比（前期比較）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

市場分類	2021年3月期 第2四半期	2021年3月期 通期	2022年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
通信	9.4%	9.4%	7.3%	5.1%
情報	1.9%	1.6%	1.8%	22.8%
自動車	50.2%	52.4%	54.0%	44.9%
産業	24.0%	22.2%	22.2%	24.9%
家電	13.8%	13.7%	14.0%	36.3%
その他	0.7%	0.7%	0.7%	30.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	34.7%

◆半導体・IC製品群 市場分類別売上高構成比（前期比較）

市場分類	2021年3月期 第2四半期	2021年3月期 通期	2022年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
通信	2.5%	2.3%	2.1%	18.3%
情報	4.5%	3.9%	3.9%	22.4%
自動車	33.1%	36.5%	37.8%	60.8%
産業	26.9%	23.4%	24.2%	27.4%
家電	32.0%	32.8%	31.0%	36.4%
その他	1.0%	1.1%	1.0%	38.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	41.0%

単位：百万円（百万円未満切捨て）

◆半導体製品群別売上高構成比（前期比較）

製品分類	2021年3月期 第2四半期	2021年3月期 通期	2022年3月期 第2四半期	
	構成比	構成比	構成比	売上高増減率
ダイオード	78.9%	81.3%	80.3%	43.6%
サイリスタ	3.1%	3.1%	2.8%	28.6%
I C	5.7%	5.4%	9.1%	122.7%
スイッチング素子	3.2%	2.9%	3.4%	50.4%
パワーモジュール	9.1%	7.3%	4.4%	△31.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	41.0%

※上記比率は、新電元単独のデータを元に算出しています。